

日々 往来



大山 陽久

このところ、地方経済の活性化に向けた議論が、あちこちで盛り上がりを見せている。しかしながら、その内容は唱える人によってさまざまで、同床異夢ではないかと心配している。

地域全体の「平均値」を引き上げることになる施策でも、個々人の立場

地域活性化の目指すもの

からみると、プラスに
源を集中した方が良いと
る人とマイナスになる人
いうことになる。従って
とが生じる。長らく続い
それは別の指標、例え
たデフレ経済の下で、硬
ば幸福感とか満足度とい
直的ながらも安定的であ
った物差しを目標に含め
った社会構造に慣れてし
ないと、地方には勝ち目
まった人々にとって、自
がなかる。

最近、若者を惹きつけ
分にマイナスとなる施策
てUターンさせること
に対しては総論賛成・各
論反対となり、具体的施
策については百家争鳴、
方々に話を聞くと、いず
れも「お金だけでは人は
動かない」「やりがい

そうした事態を避ける
もって自己実現できる場
には、地域活性化とは何
(仕事)の提供」という
を指すのか、まずその
点で共通していた。

目標について合意を形成
そつえば、人口増加
してから、具体策を論じ
地域・日吉津村に人が集
るのが有効ではないだろ
まってくるのも、コンパ
クトシティーの生活利便

もし経済成長を目指す
性と住環境・就業環境の
良さに魅せられた面が大
生率は低くても生産性の
きいよつた。

高い大都市圏に人口や資
(日本銀行鳥取事務所長)